

4年	科目	機械工学実験 I	実験	通年	担当	西田(幹事教員)・村松・宮内・井上・山中・松田・前田・新富 NISHIDA, MURAMATSU, MIYAUCHI, INOUE, YAMANAKA, MATSUDA, MAEDA, SHINTOMI
機械工学科		Experiments in Mechanical Engineering I	必修	2履修単位		
授業の概要						
<p>機械工学実験の目的は、機械工学に関する基礎的な現象または諸特性を自ら実験することにより直接体験し、理解することおよび実験技術や測定器の取り扱い法を習得することである。このため実験テーマにはいずれも単なる講義の補助ではなく、理論的方法とともに工学的内容をもったものを選定してある。なお、実施にあたってはクラスをグループに分け、複数のテーマを交替で実験を行なう。</p>						
本校学習・教育目標(本科のみ)		目標	説明			
	○	1	技術者の社会的役割と責任を自覚する態度			
	○	2	自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力			
	○	3	工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力			
	○	4	豊かな国際感覚とコミュニケーション能力			
	○	5	実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢			
プログラム学習・教育目標 (プログラム対象科目のみ)	実践指針 (プログラム対象科目のみ)			実践指針のレベル (プログラム対象科目のみ)		
E. 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を進めることができる能力と姿勢	(E1) 工学技術に関する具体的な課題にチームで取り組み、その中で担当する実務を適切に遂行することができる。			(E1-2) 工学技術に関する具体的な課題にチームで取り組む際、チーム内の自分の役割を把握し、行動できる。		
授業目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 実験の成果を報告書としてまとめ、その内容について質問に答えることができる。 2. ワープロ、表計算ソフト等を活用して資料を処理することができる。 3. 実験を通して自然現象を観測し、現象の法則性を抽出することができる。 4. 工学の基礎的な知識・技術を駆使して実験結果を解析し、目的に関連づけて工学的に考察することができる。 5. 技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し、技術者と社会の関連を説明できる。 6. 工学技術に関する課題についてチームで取り組み、チーム内の自分の役割を把握し、行動できる。(E1-2) 						
授業計画						
第1回	オリエンテーション	授業概要、学習・教育目標、スケジュール、評価方法と基準等の説明、実験指導書の配布				
第2回	報告書の書き方	実験報告書の書き方指導・安全教育				
第3回	材料力学(1)	引張り試験		松田	機械工学科棟1F 材料力学実験室	
第4回		ねじり試験				
第5回		レポート指導				
第6回	水力学(1)	流れの可視化		村松・前田	機械工学科棟1F 流体工学実験室	
第7回		流量係数の測定				
第8回		レポート指導				
第9回	測定工学(1)	表面あらさの測定		宮内	機械工学科棟1F 機械力学実験室	
第10回		歯車の解析				
第11回		レポート指導				
第12回	3D-CAD演習(1)	3D-CADの基本操作(1)		山中	機械工学科棟4F コンピュータ演習室	
第13回		3D-CADの基本操作(2)				
第14回		レポート指導				
第15回	金属材料学(1)	鉄鋼の顕微鏡組織試験		井上 中澤	機械工学科棟2F 材料工学実験室	
第16回		鉄鋼の熱処理				
第17回		レポート指導				
第18回	前半のまとめ	第3～17回に実施した工学実験のまとめ				
第19回	材料力学(2)	衝撃試験		西田	機械工学科棟1F 材料力学実験室	
第20回		硬さ試験				
第21回	水力学(2)	管摩擦係数の測定		村松・前田	機械工学科棟1F 流体工学実験室	
第22回		円管内の乱流の速度分布				
第23回	技術者の社会的役割	企業技術者による講義(実務上の問題点と課題ならびに技術者と社会の関連について考える)				
第24回	測定工学(2)	空気圧縮機の性能試験(1)		新富	教育研究支援センター 北棟 燃焼工学実験室	
第25回		空気圧縮機の性能試験(2)				
第26回	3D-CAD演習(2)	3D-CADを用いたモジュール設計(1)		山中	機械工学科棟4F コンピュータ演習室	
第27回		3D-CADを用いたモジュール設計(2)				
第28回	金属材料学(2)	熱分析法(1)		井上 中澤	機械工学科棟2F 材料工学実験室	
第29回		熱分析法(2)				
第30回	ま と め	工学実験のまとめ				
評価方法と基準	レポート点を100%として評価する。授業目標4(E1-2)が標準基準(6割)以上で、かつ科目全体で60点以上の場合に合格とする。評価基準については、成績評価基準表による。					
教科書等						
備考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2. 授業参観される教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。 					